

平成 30 年度 愛知学泉短期大学シラバス 【参考】

科目番号	科目名	担当者名	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
22201	解剖学 Human Anatomy	安藤 正人	専門基礎	2	必修	1 年前期

**科目の概要**

「解剖学」は人体の構造を細胞から個体レベルにまで系統的に解き明かすことであり、皆さんのように栄養士や医療と関わる仕事を目指す人にとっては生命現象を科学的に理解するうえで必須かつ基幹的な科目の一つである。そこで、人体構造を理解するためには、構造的に関連する器官や臓器の集団を系(システム、system)として 10 区分し、系を構成する器官や臓器の相互関係について構造上の類似性などどのような働き(機能)を支えているか修得する。また、細胞レベルの微細な構造を扱う「組織学」や個体の「発生学」、「比較解剖学」などの知見とも関連付けながら授業を進める。この授業では、栄養士に必要な客観的な証拠に基づいて科学的に判断する能力を身につける。

学修内容	到達目標
① 細胞の形態的構造とその分子レベルの特徴を知る。	① 人体を構成する基本単位である細胞と同種の細胞が集団化して機能的に分化した組織、さらには異なる組織により形成される器官や臓器の成り立ちを理解することができる。
② 人体の機能的器官別 10 区分(系、systemとして、骨格系、筋系、神経系、感覚器系、内分泌系、消化器系、循環器系、呼吸器系、女性生殖器系、男性生殖器系)の形態とその特徴を知る。	② 人体を 10 の器官や臓器の集団系(システム、system)に区分し、具体的にはそれぞれ骨格系、筋系、神経系、感覚器系、内分泌系、消化器系、循環器系、呼吸器系、泌尿器系および生殖器系について構造上の特性を理解することができる。
③ 医療現場で必要な解剖学用語表記を知る。	③ 基本的な解剖学用語(器官や臓器名、人体の外形区分の表記法など)については、日本語と英語で表記できる。
④ 形態の学習では、自らスケッチして器官の相互関係を理解し、解剖学用語と名称を使用する。	④ 教科書あるいは模型で示される臓器や骨格などの図は、自らスケッチ(図示)し形状を理解することができる。

**学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素**

**学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

前に踏み出す力	主体性	授業以外の時間を使い自己学修で知識を深め、また、課題をするのに必要な知識について資料や参考書を利用して記述できること。
	働きかけ力	
	実行力	到達目標、評価方法等を確認して、目指す成績目標を設定すること。その上で、目標が達成できるよう実験実習と復習や予習に取り組むことができる。
考え抜く力	課題発見力	本科目で人体の構造を理解し、また「生理学」を学修することで、人体を構成する器官や臓器の働きの仕組みが分かり、その上で、生体が破綻した際の原因を推察することができること。
	計画力	毎回の授業の予習と復習で、自己学習が限られた時間内で能率よく進めることができること。
	創造力	本科目や「生理学」、「解剖生理学実験」で学んだ知識だけでなく、他の科目や汎用的知識を動員して、自分の発想ができること。
チームで働く力	発信力	グループ内で課題について文献を検索し意見を述べる時、あるいは発表する際、聞き手にわかりやすく伝わるよう、発表の仕方やポイントが整理されて、相手が十分に理解できること。
	傾聴力	グループワークで課題について意見交換する際、相手の意見を十分に聴き、効果的な質問をして、自分の意見を述べるができること。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	無断欠席、遅刻・私語など、授業に支障をきたす行動をせず円滑に進行するようルールを守ること。
	ストレスコントロール力	

**テキスト及び参考文献**

テキスト:「図説解剖生理学」 磯野日出夫ら著(東京教学社)

参考文献:「解剖生理学」ー生命活動のシナリオを学ぶー 葛谷恒彦・安藤正人ら著(八千代出版)

**他科目との関連、資格との関連**

他科目との関連:「生理学」、「生化学」、「病理学」、「解剖生理学実験」、「科学概論」

資格との関連:栄養士(管理栄養士)、 医事管理士、 医療管理秘書士

**学修上の助言**

**受講生とのルール**

使用するテキストの図は自らスケッチするなど形態の理解に努めるとよい。日常的に、関連する生物学の基礎的内容については、ネットや図書館利用で知識を得るとよい。解剖学用語や器官・臓器などの英語表記については何度も書いて復習するとよい。

授業中の私語は周囲の迷惑となるので慎むこと。携帯電話は電源を切りカバンの中に入れておくこと。質問などは、授業内と時間外で積極的に行うこと。

【評価方法】

評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
筆記試験	70	①	✓	人体の細胞や組織と臓器・器官の機能的連携を表す系について、形態的な特徴が理解できていること。 器官や臓器の相互関係について理解できていること。 解剖学用語の内、基本的な表記ができること(日本語・英語)。 10の生体システム系について、分かりやすく説明することができること。 人体の大要を図示して必要な名称が与えられること。 必須の学修内容を理解し、ポイントを捉え、自分の表現で記述しているか評価する。
		②	✓	
		③	✓	
		④	✓	
小テスト	20	①	✓	質問によって、前週の授業内容を確認するため、授業の初めに口頭で試問を行い、的確な記述による解答ができること。この際、基本的な解剖学用語が使用できること(日本語・英語)。
		②	✓	
		③	✓	
		④		
レポート				
成果発表 (口頭・実技)				
作品				
社会人基礎力 (学修態度)	10	①	✓	「主体性」自ら知識を深める姿勢・行動が見られること。 「実行力」自己の学修(評価)目標を設定して、その達成に努力すること。 「課題発見力」生体の生理状態を理解し、破綻状態の原因を説明できること。 「計画力」毎回の授業の予習・復習で自己学習が限られた時間内で能率よく進めることができること。 「創造力」知識を活用し独自の考えを説明できること。 「発信力」、聞き手に解りやすい発表の仕方ができること。 「傾聴力」相手の意見に対して、効果的な質問を通して、理解を深めることができること。 「規律性」身支度や手洗い、実験時間、器具の片づけなどルールを守って行うことができる。無断欠席、遅刻など実験に支障をきたす行動をしないこと。
		②	✓	
		③	✓	
		④	✓	
その他				
総合評価 割合	100		✓	筆記試験、毎時間の質問(小テスト)及び授業態度の成績を総合して評価する。

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
★人体を10の区分(系)に機能的に分割して、その器官や臓器の形態的特長及び名称を記述し、また口頭でも的確に説明できること。(①) ★栄養士実力認定試験ガイドラインで示す本領域での基礎的知識を的確に説明できること。(②) S(秀)=①+②、A(優)=①又は②	★人体を10の区分(系)に機能的に分割して、その器官や臓器の形態的大要及び名称が記述でき(①)、口頭でもわかりやすく説明できること。(②) B(良)=①+②、C(可)=①

週	学修内容	授業の実施方法及び フィードバック方法	到達レベル C(可)の 基準	予習・復習	時間 (分)	能力 名
1週 /	○ 人体構造の概要 解剖学的表記法、人体外形区分、器官・臓器の位置と名称(英語表記を含む)を理解する。	講義	解剖学的表記法、外形区分、臓器・器官の位置と名称をわかりやすく説明することができる。	(復習)ノートとテキストで人体の概要と英語表記を復習すること。 (予習)次回の細胞の構造についてテキストで確認すること。	180	主体性 課題発見力 発信力 規律性
2週 /	○ 細胞と組織 細胞の構造と組織(上皮、支持、筋、神経)の特徴を理解する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に記述で答えた後、フィードバックする)	細胞と組織の形態的特長を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習)ノートとテキストで細胞内器官と分子構造について復習すること。 (予習)次回の人体骨格の概要についてテキストの図をトレースすること。	180	主体性 課題発見力 発信力 規律性
3週 /	○ 骨格系 身体の枠組みである骨格系の全体像と主要骨格の位置と名称を理解する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に記述で答えた後、フィードバックする)	骨格系の全体像を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習)ノートとテキストで骨格の概要について復習すること。 予習:次回の筋系の命名法についてテキストの図で確認すること。	180	主体性 課題発見力 発信力 規律性
4週 /	○ 筋系 骨格筋、平滑筋、心筋の形態的特長と主要筋について理解する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に記述で答えた後、フィードバックする)	骨格筋、平滑筋、心筋の特徴を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習)テキストの図を参考に骨格主要筋をトレースして位置と名称を復習すること。 (予習)次回の中枢神経系の構成についてテキストの図をトレースし確認すること。	180	主体性 課題発見力 発信力 規律性
5週 /	○ 神経系 I 神経系は中枢神経と末梢神経に大別される。ここでは脳と脊髄の中枢神経の形態を理解する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に記述で答えた後、フィードバックする)	脳と脊髄の形態的特長と名称を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習)テキストの図をトレースして脳と脊髄をスケッチして形態と名称を復習すること。 (予習)次回の末梢神経系の構成についてテキストで確認すること。	180	主体性 課題発見力 発信力 規律性
6週 /	○ 神経系 II 脳と身体各部位とを連絡する末梢神経(脳神経と脊髄神経)の形態を理解する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に記述で答えた後、フィードバックする)	脳神経と脊髄神経の形態と名称を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習)テキストの図を参考に脳神経の形態と名称をトレースすること。 (予習)次回の感覚器系を構成する特殊感覚と体性感覚の構成をテキストで確認すること。	180	主体性 課題発見力 発信力 規律性
7週 /	○ 感覚器系 特殊感覚(視覚・聴覚・味覚・嗅覚・平衡)と体性感覚(触・圧・冷・温)の受容体の形態を理解する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に記述で答えた後、フィードバックする)	感覚受容体の形態と支配神経を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習)味覚に関する受容体の形態と支配神経を復習すること。 (予習)次回の種々の内分泌系を構成する産生細胞と標的部位を確認すること。	180	主体性 課題発見力 発信力 規律性
8週 /	○ 内分泌系 内分泌腺(視床下部、下垂体、甲状腺、副腎、膵臓、生殖腺、他)の形態と標的を理解する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に記述で答えた後、フィードバックする)	視床下部、下垂体、副腎、膵臓、生殖腺のホルモン産生細胞と標的を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく質問に答えることができる。	(復習)各ホルモン産生細胞の形態と名称、標的部位の構成を復習すること。 (予習)次回の上部消化器系の構成を確認すること。	180	主体性 課題発見力 発信力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法及び フィードバック方法	到達レベル C(可)の 基準	予習・復習	時間 (分)	能力 名
9週 /	○ 消化器系 I 口腔、歯、咽頭、食道、胃の形態を学習する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に記述で答えた後、フィードバックする)	口腔、歯、咽頭、食道、胃の形態と名称を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習)テキストの図をトレースして口腔、歯、咽頭、食道、胃の形態と名称を復習すること。 (予習)次回の株消化器系と肝臓・膵臓の構成をテキストで確認すること。	180	主体性 発見力 課題発見力 規律性
10週 /	○ 消化器系 II 十二指腸、空腸、回腸、盲腸、上行結腸、横行結腸、下降結腸、S状結腸、直腸、肛門と肝臓及び膵臓の形態を学習する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に記述で答えた後、フィードバックする)	十二指腸から肛門までの消化器系と肝臓及び膵臓の形態と名称を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習)テキストの図を参考に消化管の形態と名称及び肝臓胆嚢と(胆管)と膵臓(膵管)の関わりを復習すること。 (予習)次回の循環器系についてテキストの図で確認すること。	180	主体性 課題発見力 発見力 規律性
11週 /	○ 循環器系 心臓の形態と名称、体循環及び肺循環及び門脈系の血管名称を学習する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に記述で答えた後、フィードバックする)	心臓の形態、体循環及び肺循環及び門脈系形態と名称を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習)体循環と肺循環を流れる血管の構造の違いについて復習すること。 (予習)次回の呼吸器系の構成の概要をテキストで確認すること。	180	主体性 課題発見力 発見力 規律性
12週 /	○ 呼吸器系 外鼻、鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺の形態を学習する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に記述で答えた後、フィードバックする)	外鼻、鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺の形態と名称を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習)上気道と下気道の名称と形態を復習すること。 (予習)次回の女性生殖器の構成についてテキストで確認すること。	180	主体性 課題発見力 発見力 規律性
13週 /	○ 女性生殖器系 I 卵巣の形態を学習する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に記述で答えた後、フィードバックする)	卵巣の形態と名称を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習)卵巣の各部の名称と構造を復習すること。 (予習)次回の子宮の形態についてテキストで確認すること。	180	主体性 課題発見力 発見力 規律性
14週 /	○ 女性生殖器系 II 子宮の形態を学習する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に記述で答えた後、フィードバックする)	子宮の形態と名称を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習)子宮の構造と名称を復習すること。 (予習)次回の男性生殖器の概要をテキストで確認すること。	180	主体性 課題発見力 発見力 規律性
15週 /	○ 男性生殖器系 精巣とその付属器官の形態を学習する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に記述で答えた後、フィードバックする)	精巣とその付属器官の形態と名称を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習)精巣と付属器官の構造と名称を復習すること。	180	主体性 課題発見力 発見力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力